

1 目指す学校

本校は昭和15年、東京府立第17中学校として開校し、70余年の歴史を築いてきた。「自立・敬愛・叡智」の教育方針のもと、これからも地域の伝統校として、落ち着いた教育環境、現役での四年制大学への進学、部活動や学校行事での高校生活の充実という地元の期待に応えるために、進取の気概をもって更なる発展を遂げる使命がある。地域で活躍し、地域の中心を担う人物を育成するため、次のように基本方針を定める。

【基本方針】

- (ア) 葛飾区を中心とした関係諸機関との連携・協働のもと、生徒の学力向上を図り、進学校として更なる実績向上を目指すとともに、交流に向けた取組も推進する。
- (イ) オリンピック・パラリンピック教育を推進し、創造力と行動力を育成する。
- (ウ) ホームページ上に学校からの情報を積極的に発信し、保護者・地域との連携活動を推進して家庭や地域が誇りに思える学校を実現する。

2 中期的目標と方策

地域で活躍し、地域活動の中心を担う人物を育成するために、生徒の個性や適性に応じてその能力を最大限に発揮させ、社会に有為な人間を育成していくことを目標とする。

- (1) 授業の内容、方法の工夫・充実により授業力を高め、学力向上を図る。（学習指導）
 - (ア) 特別進学クラスにおいて、指導内容を充実させ、学力向上と進学実績の向上を図る。
 - (イ) 学習サイクル「＜予習⇄復習＞と＜確認テスト・フォローアップ＞」を推進し、基礎学力の定着を図る。
 - (ウ) 教科・科目の特性に応じて、講義中心の授業から演習、実験・実習、生徒同士の学び合いを取り入れ（アクティブ・ラーニング）学習効果を高め、思考力や表現力を向上させる。
 - (エ) 全校体制での授業研究や教員相互の授業見学を行い、授業力向上とともにOJTを推進する。
 - (オ) 組織的・計画的に、日常的な講習や長期休業日中の講習を実施する。
- (2) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。（生活指導、健康づくり）
 - (ア) 身だしなみ・遅刻・授業規律など、基本的な生活態度について考えさせ、自ら正しく判断し適切に行動できる生徒を育成する。
 - (イ) 生活サイクル「＜授業6h＞＋＜部活動等2～3h＞＋＜自学1～2h以上＞」を推進し、生活習慣として身に付けさせる。
 - (ウ) 日頃から心身の健康管理に気を配り、学校内外における事件・事故に巻き込まれないように危機回避能力を育成する。
- (3) 3年間の進路指導計画に基づき、キャリア教育を充実させ一層高い目標設定とその実現を目指す。（進路指導）
 - (ア) 3年間で踏まえた系統的・継続的な指導を行い、望ましい職業観・勤労観を育成する。
 - (イ) 具体的な目標設定をさせるために、学級担任と進路担当教員が協働して個人面談や三者面談を行うとともに、オープンキャンパスや高大連携に積極的に参加させる。
 - (ウ) 定期考査や実力テスト等の結果を分析し、データに基づいた適時・適切な指導を行う。
 - (エ) 資格取得や読書活動を奨励し、生き方や学びへの認識を深めさせ将来への展望とその実現に取り組む姿勢を育てる。
- (4) 開かれた学校への取組を一層充実させた生徒募集活動を展開する。（募集・広報活動）
 - (ア) 学校説明会や授業公開において、本校の特色や魅力を積極的に発信し、中学生とその保護者から選ばれる学校にする。
 - (イ) 授業体験や部活動体験を積極的に進め、本校の求める生徒像をPRする。

- (ウ) ホームページの内容を充実させ、本校の魅力を学校外へ積極的に伝える広報活動を行う。
- (エ) 学校評価アンケート等の学校に対する評価を活用し、学校運営の改善に取り組む。
- (5) 部活動や学校行事等の一層の充実を図る。(部活動、特別活動)
 - (ア) 重点支援部活動の指定を通して部活動の加入率の向上と活動実績を一層向上させる。
 - (イ) 学校行事を通して、生徒の主体性やクラスの団結力を高めるとともに、コミュニケーション力・人間関係形成力を育成し自他の個性を尊重する態度を育成する。
 - (ウ) 新教科「人間と社会」、ボランティア活動等を通して、社会参加意識を育成する。
- (6) 葛飾区教育委員会との連携により、区内中学生及び本校生徒の学力向上を図る。(その他)
 - (ア) 葛飾区教委との相互連携協定書に基づき、区内の児童・生徒の学力向上、交流及び健全育成に向けた取組を行う。
 - (イ) 区内の中学3年生を対象として、土曜日や長期休業日中を活用して「進学重点教室」を実施する。
 - (ウ) 東京理科大学との連携により、「寺子屋かつしか」を実施する。
 - (エ) 本校生徒の能力や特性を、中学校の部活動や補習授業でのサポーターとして活用させる。

3 今年度の取組目標と方策

〔1〕教育活動の目標と方策

- (1) 学習指導：基礎基本の徹底と「学習サイクル」の定着による主体的な学びの促進
 - ① 学力スタンダードの計画に基づき組織的な指導でその目標を達成させる。
 - ② 学習方法の指導、学力の定点観測、授業研究会を実施し、基礎学力の向上を目指す。
 - ③ 学習サイクルとして「予習→授業→復習→確認テスト→フォローアップ（個別指導）」のスタイルを定着させる。
 - ④ 学校全体で読書教育を推進し、授業のほか自習、読書などで図書館利用の活性化を図る。
 - ⑤ 講義中心の授業から、調べ学習、課題解決学習、実技・実習・実験などの学習活動（アクティブラーニング）を重視するとともに、レポート作成時の考察等で論理的思考力を、発表時では表現力の育成を図る。
 - ⑥ すべての教員がチャイム前入室を実践し、生徒のチャイム時着席を徹底する。
 - ⑦ 基礎学力を向上させるために、隔週で土曜日授業を行う。
 - ⑧ 朝学習、放課後や長期休業日中の補習・講習を積極的に行い、基礎学力の定着と伸長を図る。
 - ⑨ 自主的な学習の推進と定着を図るため、「学習の手引き」「受験勉強の手引き」「学習オンラインシステム（スタディサプリ）」を活用した指導を充実させる。
 - ⑩ 定期（期末）考査の前に、苦手科目の克服を図る放課後補習を実施する。
 - ⑪ 年3回、朝の読書週間を実施し、生徒に本を読む楽しさと習慣を身に付けさせる。
 - ⑫ 長野県、伊那市、NPO、葛飾区などと連携して、奉仕体験合宿を行う。
 - ⑬ 有志による授業研究の活動を奨励する。
 - ⑭ 理数研究校の指定校として、科学分野における探求心の育成とともに科学の甲子園に出場し高い成果を残す。
- (2) 進路指導：一人一人の生徒が希望する進路を実現
 - ① 進路講演会、進路だよりの発行、進路の手引きの活用、生徒面談、三者面談を実施し生徒及び保護者の進路意識を高める。
 - ② 保護者会や三者面談の際に、保護者に対して適切な進路情報を提供する。
 - ③ 学力分析会を6月と11月に実施する。国語・数学・英語・理科・社会の5教科で、定期考査や実力テストの結果を生徒一人一人について分析する。
 - ④ 進路説明会では、大学・短大、専門学校、公務員・就職など生徒の希望に応じて幅広く対応していくが、とりわけ専門学校希望者においては、安易な学校選択をさせない指導を行う。

- ⑤ 大学進学希望者には、1年生からセンター試験受験を意識させ、受験者数を増加させる。また、安易にAO入試や推薦入試に頼らせない指導を行う。
- ⑥ ファインシステムを活用し、進路部と学年が連携して個別進路指導を充実させる。
- (3) 生活指導：基本的な生活習慣の確立、品位ある身だしなみ指導、授業規律の確立
 - ① 規範意識をこれまで以上に高めるために、公共性・身だしなみ・対人関係・遅刻・授業規律について、学校全体で取り組む。
 - ② 挨拶・服装・頭髮・ピアス・化粧の指導を徹底する。
 - ③ 授業中の携帯電話持込禁止、机上の不要物の撤去などを徹底し、授業に集中させる。
 - ④ 自転車通学者など安全指導を徹底し、被害者にも加害者にもならないようにする。特に、雨天時の傘差しや「ながら」運転の禁止を徹底して指導する。
 - ⑤ 遅刻0週間の取組を年間3回以上実施する。
 - ⑥ いじめ対策防止基本方針に基づき、いじめの実態把握アンケートを年3回実施し、いじめの予防、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。
- (4) 特別活動・部活動
 - ① 一斉部会、発表・表彰など、部活動の広報活動を充実させ、部活動加入率を向上させる。
 - ② 重点支援に指定したバドミントン部、ソフトテニス部、吹奏楽部の活動を活性化させる。
 - ③ 部活動と学習の両立を図るため、部活動単位の勉強会を奨励する。
 - ④ 文化祭、体育祭などの学校行事や、生徒会活動に積極的に参加する生徒を育成する。
 - ⑤ 清掃等の校内美化、ゴミの分別、ゴミを出さない指導を通して、自ら学習環境を整える態度や社会性や公共心を高める。
 - ⑥ 地域行事、ボランティア活動、奉仕活動への参加を積極的に参加させる。
 - ⑦ 1年生で宿泊奉仕体験学習を実施し、自然や環境に対する意識を高める。
 - ⑧ オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、5つの資質（ボランティアマインド・障害者理解・スポーツ志向・日本人としての自覚と誇り・豊かな国際感覚）を育成する。
- (5) 健康づくり
 - ① スクールカウンセラーによる1年生全員や生徒の安全・健康・教育相談の充実を図る。
 - ② 「健康づくり推進計画」をもとに、保健講話や薬物乱用防止講話を実施する。
 - ③ 特別な支援が必要な生徒への対応力を高める研修会を行う。
 - ④ 月1回の保健だよりの発行を通して、生徒の健康意識を高める。
 - ⑤ 救急法講習会を実施し、運動系部活動の生徒を中心に、応急処置の知識・技能を習得させる。
 - ⑥ 授業（保健体育）・部活動・体育的学校行事をより充実させ、体力の向上を図る。
- (6) 募集・広報活動
 - ① 学校説明会（年4回）、学校見学会（夏期休業日中7回、放課後は随時）、授業体験、部活動体験を実施する。
 - ② 学校説明会資料、ポスター、ホームページの改善など、PR活動を充実させる。
 - ③ 授業公開週間（年2回）、中学校の部活動との合同練習を実施する。
 - ④ 学校開放（公開講座・施設開放）を実施する。
- (7) 学校経営・組織体制
 - ① 学校経営マネジメントにおける主幹会議の役割を高め、計画を着実に実行させていく。
 - ② 主幹会議では、喫緊の学校経営上の課題について検討し、課題解決に向けた方策の立案について担当部に提言する。
 - ③ 研究部、計画部、相談部は兼務とする。研究部は、学力スタンダード、公開授業研究、校内研修、及びOJTを通じたグループ別授業検討会などを所掌する。計画部は、奉仕体験合宿、高大連携、特進クラスの推進、オリンピック・パラリンピック教育及び長期休業日中の講習計画などを所掌する。相談部は、スクールカウンセラーとの連絡調整や保健・応急対応補助

などを所掌する。

- ④ 特別進学クラスの状況把握を適時適切に行うとともに、積極的に情報発信を行っていく。
- ⑤ 学力向上に向けた授業改善のための公開授業研究会を開催する。
- ⑥ 葛飾区教育委員会との教育連携をより一層強化させる。
- ⑦ 危機管理体制をより高めて行くために、定期的な点検と必要に応じた環境整備を行う。
- ⑧ 経営企画室の学校経営参画機能を充実させる。
 - ・ 学校の窓口として、コンプライアンスの実践に努める。
 - ・ 来校者や地域の声を収集し、接遇の改善を図る。
 - ・ 有効な予算執行を図るため費用対効果を検証し、効果的・効率的な予算を編成する。
 - ・ 学習環境の向上や施設設備の充実を図り、安全・衛生に配慮した学校づくりを進める。
 - ・ 経営企画室と教員との相互連携をより一層高め、組織的な対応が可能となる体制を整える。
- ⑨ 服務防止研修を年3回以上実施し、体罰の根絶や服務事故の未然防止を図る。

〔2〕重点目標

（1）学習指導

- ① 夏・冬・春の長期休業日中の講習を70講座以上、延べ受講者3000人以上にする。
- ② 各グループ別授業検討会において、研究授業を年間2回以上行う。
- ③ 授業研究会（研究授業＋協議会）を年間2回以上行う。
- ④ 全学年で1日1.5時間以上を家庭学習時間に充てる習慣をつける。

（2）進路指導

- ① 大学・短大進学率を50%以上にする。
- ② センター試験の出願者数を120人以上にする。
- ③ 浪人を除く進路未決定者を3%以下にする。

（3）生活指導・部活動

- ① 全校で遅刻者0人の日を年間で5日以上にする。（定期考査期間を除く）
- ② 1日あたりのクラス遅刻者数を5%以下にする。
- ③ 1年生の部活動加入率90%以上にする。
- ④ 全学年の部活動加入率の平均を75%以上にする。
- ⑤ 部活動での中学校との連携を10部以上で実施する。

（4）募集・広報活動

- ① 学校見学会、学校説明会の延べ来校者数を合計で2500人以上とする。
- ② ホームページの更新回数を年間80回以上行う。